

県都魅力度アップ推進ワーキンググループ 第2回会議

日 時：令和6年7月31日（水）15時～16時

出席者：資料1のとおり

内 容：

- 開会挨拶 【県 村上副知事】
【市 瀬尾第二副市長】
- 自己紹介
- 議事

議事録

【吉岡 知事戦略公室長】

皆様、本日は大変お忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございます。

ただいまから、県都魅力度アップ推進ワーキンググループの第2回会議を開催いたします。

私は本日、進行役を務めます、徳島県知事戦略公室長の吉岡でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

それではこれより着座にて進行させていただきます。

初めに、開会にあたりまして、徳島県・村上副知事、徳島市・瀬尾第二副市長からごあいさつをお願いいたします。

【村上 副知事】

それではよろしくお願いいたします。徳島県副知事を務めております、村上でございます。

本日は、県都魅力度アップ推進ワーキンググループを開催いたしましたところ、瀬尾副市長をはじめといたしまして、徳島市から幹部職員の皆様に御出席をいただきまして誠にありがとうございます。

本ワーキンググループは、徳島駅前をはじめ中心市街地全体でのまちづくりのあり方を議論する、徳島県と徳島市の連携の場として、昨年8月に設置したものでございます。

その後、県におきまして、まちのにぎわいづくりを実現する上で、人が行き交う回遊性を高めるということが大変重要であるという観点から、県都のまちづくりランドデザインをお示しさせていただきました。

私どもがお示しいたしましたランドデザインについて、具体的に協議を進めるために必要となります。藍場浜公園西エリアにおける新ホールの整備、連続立体交差事業いわゆる鉄道高架化、これに伴う旧文化センター跡地への車両基地移設、また、にぎわい創出を実現するための目指すべきアリーナ像について調査を進めてきたというところでございます。

その調査結果や検討状況につきまして、先日、県議会や徳島市の皆様に御説明し、また本日、第2回ワーキンググループを開催する運びとなったところでございます。

先般の県議会、市議会それぞれにおきましては様々な御論議が行われたというふうに承知しております。

これら議会における御意見をしっかりと受けとめつつ、ワーキンググループの場を通じて県

と徳島市の緊密な県市協調のもと、将来の県都・徳島のあり方に関しまして、未来志向の議論を行っていききたいというふうを考えております。

本日は新ホール整備、県市基本協定、連続立体交差事業と車両基地の移設や、アリーナ整備など、県都のまちづくりを検討していく上で核となる事業を議題とさせていただいております。

ぜひ、忌憚のない御意見を頂戴するとともに、活発な議論を行っていただくようお願いいたします。まして、冒頭の挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしく申し上げます。

【瀬尾 第二副市長】

徳島市第二副市長の瀬尾でございます。

本日は遠藤市長が就任してから初めての県都魅力度アップ推進ワーキンググループを開催していただき、誠に感謝しております。

第二回となっておりますが、事実上は最初の会議と理解をしておりますけれども、今、副知事がおっしゃったように、県都・徳島市の魅力度をアップするために非常に重要な会議と認識しております。

知事が仰っております全国での競争、戦国時代を勝ち抜いていくためには、様々な課題がありますので、県と市の実務者で、未来志向で包括的かつ多角的に意見を重ねて、あるべき姿を検討していくということで、非常に責務の重大さを痛感しております。

そのような中、県民の皆様、また市民の皆様にとっても喫緊の課題である、新しいホールの早期整備、また、知事も仰っております、新しいにぎわいを生み出すアリーナの整備、また徳島市の中央卸売市場、これは県下全域に様々な食品を提供しているところでございますが、これの改築など、当然、市の力だけでは解決困難な課題が山積みであります。

このワーキンググループを通じまして、県の皆様には、リーダーシップを発揮していただき、課題解決に向けて、様々な面で市に対する御支援をいただきたいと考えております。

村上副知事はじめ県の皆様には、我々徳島市との忌憚のない意見交換をお願いするとともに、皆様の幅広い見識や経験に基づいた御指導、御助言を賜りたいと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

【吉岡 知事戦略公室長】

ありがとうございました。

それでは、本日ご出席の皆様から自己紹介をお願いします。

【木野内 知事戦略公室戦略プロジェクト統括監】

徳島県知事戦略公室戦略プロジェクト統括監の木野内でございます。

徳島県におけるワーキンググループの事務局業務を総括しております。

どうぞよろしくお願いいたします。

【島田 企画総務部副部長】

企画総務部副部長の島田でございます。

県の公有財産を所管しております。

よろしくお願いいたします。

【長谷川 観光スポーツ文化部副部長】

観光スポーツ文化部の長谷川です。
新ホールとアリーナを所管しております。
どうぞよろしくお願いいたします。

【美保 観光スポーツ文化部次長】

同じく観光スポーツ文化部次長の美保と申します。
阿波おどりははじめといたします文化コンテンツや万代埠頭のにぎわいづくりなどを担当しております。
よろしくお願いいたします。

【吉成 生活環境部副部長】

生活環境部副部長の吉成でございます。
地域交通、JR四国との連携を担当しております。
どうぞよろしくお願いいたします。

【尾崎 経済産業部大学・産業創生統括監】

経済産業部大学・産業創生統括監の尾崎でございます。
中心市街地活性化、商業振興等、県の経済活性化を担当しております。
よろしくお願いいたします。

【松本 農林水産部副部長】

農林水産部副部長の松本でございます。
中央卸売市場の整備の関係を担当させていただきます。
どうぞよろしくお願いいたします。

【小津 県土整備部次長】

県土整備部次長の小津でございます。
連続立体交差事業の担当をさせていただきます。
どうぞよろしくお願いいたします。

【永戸 企画政策部長】

徳島市企画政策部長の永戸でございます。
市におけるワーキンググループの総括補佐、それと個別事業としては、中心市街地活性化を担当しております。
よろしくお願いいたします。

【大谷 市民文化部長】

市民文化部長の大谷でございます。
ホール、アリーナ関連を担当させていただいております。
どうぞよろしくお願いいたします。

【浦 経済部長】

徳島市経済部長の浦でございます。
施設で言えば、中央卸売市場、食肉センターと観光、経済政策を担当させていただきます。
よろしくお願いいたします。

【森 都市建設部長】

都市建設部長の森でございます。
このワーキンググループで申しますと、駅の北側開発、それから鉄道高架、旧動物園跡地の活用、それから街の回遊性向上などが所管でございます。
よろしくお願いいたします。

【上田 企画政策部副部長】

企画政策部副部長の上田と申します。
中心市街地活性化基本計画などを担当させていただいております。
どうぞよろしくお願いいたします。

【吉岡知事戦略公室長】

ありがとうございました。
それでは、ここからは、お手元次第の「4議事」に沿いまして、協議を行いたいと思います。
まずは、「(1) 県・市議会における議論の状況」について、それぞれ御説明をお願いします。

【木野内 知事戦略公室戦略プロジェクト統括監】

知事戦略公室の木野内でございます。
私の方から、先の6月県議会におけます、県都のまちづくりに関連する議論の状況について御説明を申し上げます。
資料はございませんので、よろしくお願いいたします。
この後、それぞれ担当部局より説明をいたしますが、まず県議会・事前委員会におきまして、新ホール整備候補地調査の結果、またアリーナ整備に向けた調査研究事業の調査結果及び、徳島駅北口設置に係る車両基地移設検討事業の中間報告を行いました。
これらを受けまして、本会議では、新ホール整備に関する議論が多くなされまして、主なものといたしまして、

- ・ 1,500席規模のホールで、県民の期待に応えるだけの催しを開催することが可能であるのか、専門家の意見を聞き、県民に説明する必要がある。
- ・ ホールは、整備費も重要であるが、ランニングコストも重要な要素であり、その見通しを踏まえた持続可能な新ホールの実現を図る必要がある。
- ・ また、旧文化センター跡地への車両基地移設には反対であり、現計画でのホールの早期

着工を要望する。

- ・ 例えば、ホールとアリーナの複合施設を検討するなど、リスケジュールし、最良の策を検討すべきである。

など、賛成、反対様々な立場から議論が行われたところでございます。この他にも、

- ・ アリーナ整備は北エリアにこだわるのではなくスピード感を優先し、徳島東工業高校跡地での整備を進めるべきである。
- ・ 県市基本協定の今後の取り扱い、様々な課題の解決策を明確に定めなければ、新たなまちづくり構想は、絵に描いた餅になってしまう。
- ・ 県市ともに新たな体制となった今、この機会を逃さずに、県都のにぎわいを取り戻せるよう、市民、県民の願いを着実に前に進めて欲しい。

など、様々な観点から議論を行って参りました。

さらに委員会に場を移しまして経済委員会、県土整備委員会、まちづくり・魅力向上対策特別委員会、それぞれの委員会の場におきまして議論が行われましたが、議論の中心は、新ホール整備に関する候補地の変更と、それに伴う県市協定の取り扱いに関する内容でございました。

このような中、閉会日には、知事の方から、新ホール整備については藍場浜案で進めて参りたいとの思いを改めて表明するとともに、県市基本協定に関し、未来志向で具体的な検討を進め、その取り扱いについて、県市ワーキンググループの場で協議する旨を、議会に対し説明をいたしました。

県議会6月定例会での主な議論は以上でございますが、県といたしましては、新ホールの整備場所変更に伴う県市基本協定の取り扱いについて、ワーキンググループの場を通じまして、徳島市の皆様と協議をし、課題解決を図り、緊密な県市協調のもと、県都のまちづくりを進めて参りたいと考えております。

私からは以上でございます。

【永戸 企画政策部長】

続きまして私の方から、先の6月議会における県都のまちづくりに関する議論の状況について御説明を申し上げます。

まず、本会議におきましては、代表・個人、計4人の委員からまちづくりに関連して、

- ・ 莫大な金、県民、市民の税金を使う事業であり、十分な検証と検討の上で進められなければならない。とか、
- ・ 新ホールについて、地下駐車場の解体費やこれまで費やされた費用を考えると、藍場浜案が50億円安くなるとの主張には疑問を感じるほか、補助率が低くなれば県の負担が増える。また、現計画はホール規模だけでなく、人が集まる都市空間を生み出そうとするもので、維持費の単純比較のみで、一律に語ることはできない。とか、
- ・ 藍場浜案は、設計もこれからで、開館時期が1年半以上遅れる。県民は一日も早い新ホール整備を待ち望んでいる。とか、
- ・ 旧文化センター跡地は徳島城を望む一等地で、歴史の重みを感じる貴重な場所である、そこに高い防音壁で囲まれた車両基地が設置されるということは疑問である。JR四国がこの構想に踏み切るかどうかも疑問である。慎重な対応を願う。とか、
- ・ 県との協議は重要だが、まず市としての方向性を明確にしてもらいたい。

など、新ホールを中心として様々な意見があったところであります。

その後にかかれまして、各委員会におきましては、県の各種調査結果につきまして、所管の委員会で報告を行いました。

そのあと委員会で様々議論がありましたが、まず総務委員会におきましては、

- ・ 新ホールについてはこれまでに、音楽関係者等と議論して今の方向に落ち着いており、議論は尽くされている。とか、
- ・ 以前の議論で、旧文化センター跡地に操車場を持っていくことについては、近隣住民の同意が得られにくいということで終わっている。とか、
- ・ 市は駐車場難の状況であり、藍場浜の地下駐車場を廃止した場合の対応について、詰めてもらいたい。とか、
- ・ 文化団体等から、小ホールは 300 から 500 席ぐらいが一番使いやすいという意見があった中で、2,000 席規模の大ホールと小ホールを一体とする形で進めてきた。また、総予算については、地下駐車場の解体などで、あまり変わらないのが現状と思う。今までの計画で取り組みを進めるべきと、ワーキンググループ等でしっかりと主張してもらいたい。とか、
- ・ あわぎんホールを小ホールとして連携することは難しい。小ホールから大ホールに移動するのも、屋根もなく、楽器も雨の中で持って行かないといけない。とか、
- ・ 県市協調新ホールというのは、旧文化センター跡地で作るものことであり、他に移るとなったらそう呼べない、それをはっきりさせ、協定を白紙に戻して土地を返してもらい、協定違反であるから、損害賠償請求して、お金を返してもらってから、車両基地の話をするべき。とか、
- ・ 市立体育館は年間 40 数万人が使っており、これを移すのであれば、先に別の場所で施設を建設する必要があるので、アリーナの整備場所は慎重に検討してもらいたい。とか、
- ・ 知事が一番重要と考えているのは、北口開発であって、本来なら、調査も何もかも北口のことを一番にやらなければならない。とか、
- ・ 車両基地ができないのであれば、新ホールを移設する必要はないのであって、藍場浜に持っていく理由はない。とか、
- ・ 車両基地については、県が主導して、何百億円もかけて移設して、その後、市に半分出せと言われても、これは市として断ってもらわないと困る。とか、

等々、新ホールは現計画で進めるべきといった意見や、藍場浜で整備する場合の対応等についての議論があった他、鉄道高架に関する話もございました。

また、建設委員会では、

- ・ 車両基地について、JRの意向を聞いているのか。市の一等地に景観を阻害する車両基地を作るのは違和感がある。とか、
- ・ 鉄道高架事業について、総事業費、三者の負担割合、周辺対策、環境対策など、何もわからない状況では議論ができない。とか、
- ・ 市としては、国道 192 号アンダーパスがどうなるのか、解消されるのかどうか課題であり、そこをしっかりとチェックして欲しい。

といった意見がございました。

そうした中、総務委員会におきましては、まちづくり構想における駅北開発や車両基地移転、

新ホール整備のこの3つの要素は、密接に関連しており、総務委員会で、新ホールのことだけを議論しても仕方がない。ここは建設委員会との連合審査会を開催したらどうかと委員から提案があり、これを両委員会が承認して連合委員会が開催されました。

その連合委員会では、まず、新ホール関連として、

- ・ 藍場浜案では経費は半額になっておらず、それならフルスペックの現計画の新ホールを進めてもらいたい。とか、
- ・ 整備場所を変更するなら、市は県に応分の負担を求めると言っているが、本当にそんなことができるのか。とか、
- ・ 旧文化センターの県名義の土地については、ゼロから議論していかないといけない。

などの議論がありました。

また、アリーナ関連では、

- ・ アリーナの敷地は、今の市立体育館のところだけで大丈夫なのか。内町小学校のところまで敷地が必要となると、現実的には不可能である。東工業高校跡地であれば広いスペースがある。そういったことも踏まえてしっかりと議論して欲しい。とか、
- ・ 市立体育館は老朽化しているが、新体育館移転検討を行っていた。本来なら、もう整備計画ができてないといけない。県から移設の要望があれば、前向きに進めるのか。

といった議論がありました。

また、車両基地移転等の関係では、

- ・ 鉄道高架事業は着手したら後戻りはできない。当時積算した費用よりも多額となることは容易に考えられるが、果たして市の体力はあるのか。とか、
- ・ 鉄道高架をしない前提の案が示されているが、これは論外だ。また、車両基地移設後の、跡地活用可能とされている場所は、スペースが狭いけれども、どんな開発をするのか。とか、
- ・ 車両基地に関する県の考えは、高架化か盛り土であるか、どちらも莫大な費用が必要となるので難しいだろう。これには都市計画決定も必要であり、何年もかかる。新ホールができて、あとは全部塩漬けになるのではないか。とか、
- ・ 鉄道高架事業はまだ生きていっても、年月が経過しており、負担割合の確認をするべきである。とか、
- ・ 車両基地移設となれば費用が発生するが、これにJRが踏み切るかどうか疑問であり、JRの見解をお聞かせいただきたい。

といった議論があった他、

- ・ 徳島駅周辺まちづくり計画との整合性はどうなっているか、きっちり調整を図る必要がある。とか、
- ・ 県の調査が終わるまでにワーキングを重ね、明確なものを示せるようにしてもらいたい。

といった、今後の取り組みへの意見等があり、最後に委員長から、理事者においては、連合審査会の議論の趣旨を十分に踏まえ、今後の県との協議に臨むとともに、その都度、議会に報告するよう求めておく、とのまとめがあったところです。

以上が、市議会6月定例会での主な議論であります。

【吉岡 知事戦略公室長】

それでは次に、「(2) 県都のまちづくりの方向性」について、まずは県より御説明を申し上げます。

【木野内 知事戦略公室戦略プロジェクト統括監】

私の方から、まずは、改めまして、県都徳島のグランドデザインに關しましてその概要、考え方について御説明を申し上げます。

資料といたしましては、右肩「資料2」を御覧ください。

この資料は県のグランドデザインと、市の2つのまちづくり計画をあわせて御覧いただくものでございます。

まず1ページを御覧いただきまして、すでに御承知のことと存じますが、昨年11月に藍場浜公園西エリアにおけます新ホール整備や、旧文化センター跡地への車両基地移設などを含む県都徳島のまちづくり・グランドデザインをお示しをさせていただきました。

これは先ほど副知事からも申し上げましたとおり、まちのにぎわいづくりを実現するためには駅前を中心として、人が行き交う回遊性を高め、公共投資を呼び水とした民間投資の拡大につなげるのが肝要であるとの考え方をベースとしておりまして、これまでまちづくりの主体であります徳島市において検討がなされてきました各計画の考え方を踏まえて作成したものでございます。

一例を申し上げますと、まず、車両基地移設と駅北口・北側開発に關しましては、この資料1ページのグランドデザインイメージにおきまして、左上の方、赤枠で囲ってございますが、アリーナ、駅北広場や徳島駅プラットホーム立体化、ボトルネック踏切の解消をお示しをしておりますが、これはおめくりをいただきまして、2ページ、こちら徳島市の計画でございます徳島駅周辺まちづくり計画にある、こちら赤枠で囲ってあります、市立体育館の建て替え等検討や、高架下空間の活用、また3ページに参りまして、駅北側におけます、公園エントランス空間の整備、さらに4ページの方にも参りまして、赤枠左上でございます連続立体交差事業などを踏まえたものとなっております。

次に、1ページの方にお戻りをいただきまして、ウォークブルで回遊性の高いまちづくりという観点でございますが、こちらは県のグランドデザインイメージにおきまして、左側のひょうたん島クルーズ、水上タクシー、また、駅前通りの活性化などとしてお示しをしておりますが、これはまた4ページに戻っていただきまして、徳島駅周辺まちづくり計画におけます、左側の国道438号新町橋通の道路空間再編検討、また、ひょうたん島クルーズや、新しい移動手段の導入と交通結節点の設置、また、5ページに参りまして、こちらは徳島市の中心市街地活性化基本計画でございますが、こちらにおけます、ひょうたん島・川の駅ネットワーク事業や、デマンド交通の実証実験事業などを踏まえた内容となっております。

さらに、市において検討を進めてきたいずれの計画におかれましても、中心市街地におけるにぎわい創出の核として、文化ホールの整備が記されているところでございますが、この点につきましては、県といたしまして、1ページに戻っていただきまして、より徳島駅に近く、人の流れを呼び込むことが期待できる大きなポテンシャルを持ったエリアであります、藍場浜公園西エリアを、新ホールの整備候補地として、このグランドデザインの中でお示しをしたところでございます。

このように徳島駅の南北を結ぶことによる、徳島城から眉山までの南北交流軸の形成、水都

の特徴を生かした回遊性が高いまちを目指すという方向性自体は、県、市ともに一致をしていると考えているところでございます。

その上で、県といたしましては、近年注目を集めております万代地区のにぎわいづくりや、県外はもとより海外からの誘客が可能なスーパーヨット誘致、また徳島市が再整備の検討を進めております、先ほどお話もありました中央卸売市場など、県市協調でさらなる取り組みを行うことで、駅前中心市街地の活性化はもとより、県都全体のにぎわいが創出され、ひいては本県全体の魅力度向上に資するものと考えております。

以上のような考え方のもとで、県都・徳島のグランドデザインを取りまとめ、お示しをさせていただいたところでございます。

引き続き、県市協調で未来志向の議論を行って参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

【吉岡 知事戦略公室長】

ただいまの県からの説明について、御意見、御質問等はありませんでしょうか。

【永戸 企画政策部長】

企画政策部長の永戸でございます。

ただいま御説明いただきましたように、今回、昨年11月ですけれども、県から御提案いただいております、県都・徳島のグランドデザイン、こちらの考え方につきましては、歩いて暮らせる、歩いて楽しめるまちづくり、そして、中央公園から眉山までのにぎわい交流軸の形成、そして、新たな挑戦や投資が生まれるまちづくり、こういったものを目指しているということで、改めて再認識させていただきました。

これらのことにつきましては、これまで徳島市が、徳島駅の駅前周辺まちづくり計画や、中心市街地の活性化に向けた基本計画などの各計画において目指して参りました、中心市街地活性化の考え方、まちづくりの考え方と方向性は共通しているものと考えております。

こうした共通の方向性のもとで、今後とも、県市で知恵を出し合いながら、より魅力度の高い県都・徳島を実現できるよう、協力して取り組んで参りたいと考えておりますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

【吉岡 知事戦略公室長】

他にご意見等ありませんでしょうか。

よろしいですか。

それでは、次の議題に移りたいと思います。

次に、「(3)新ホール整備」について、まずは県より、改めて藍場浜公園における新ホール整備に関する調査結果について御説明を申し上げます。

【長谷川 観光スポーツ文化部副部長】

観光スポーツ文化部の長谷川です。

新ホールの整備につきましては、先ほどの県都のまちづくりグランドデザインで示した、藍場浜公園西エリアを、新たな候補地としまして、大ホールは1,500席程度を下限に、小ホール

はあわぎんホールの一休活用を視野に入れた上で、施設の規模や機能、コスト、スケジュールを具体化する調査を行ったもので、改めて、結果を御説明させていただきます。

「資料3」を御覧いただきたいと思ひます。

まず、1の新ホールの施設規模、機能の概要としまして、モデルプランを地上4階、地下1階とし、エントランスを徳島駅側、舞台や搬入はあわぎんホール側に配置してあります。

大ホールは客席三層、固定席1,504席と仮設席、立ち見席とし、楽屋やリハーサル室、スタジオ、活動室に加え、音響反射版やオーケストラピットなど、舞台機能は旧徳島文化センター跡地周辺での現計画の基準を維持してあります。

その他としまして、カフェ飲食は、講演条件に左右されやすいホール内ではなく、隣接する藍場浜公園東エリアで、Park-PFIによる民間運営を検討してあります。

また、施設直下の藍場町第一地下駐車場は解体が必要になるものと考えてあります。

次に2のコスト、スケジュールについては、モデルプランによる概算としまして、本体工事費が約142億円、関連工事費として、藍場町第一地下駐車場の設備移転と解体等で約12億円が見込まれるところだす。

スケジュールについては、設計に要する期間が約1年6ヶ月、工事に要する期間は約2年10ヶ月との結果でありまして、この他、設計の前には、計画改定、合意形成、事業者選定などに数ヶ月を要すると考えてあります。

なお、最終的な設計期間と施工期間は、今後の整備手法や選定事業者によって変動するところだす。

次に、3の地質解析調査、ボーリング調査も計4箇所で実施したところだす。

地下の支持層、硬い岩盤については、地下20メートルから45メートルの深さにあることが判明しました。周辺に比べて極端に深い結果ではございませんでした。

また、4の埋蔵文化財の試掘も実施したところ、遺構や遺物は確認されなかったことから、今後、藍場浜公園で事業を実施することとなった場合も、埋蔵文化財の本調査は不要の見込みであります。

2ページをめぐっていただきまして、航空写真となっております。

こちらは藍場浜公園西エリアでの新ホールの配置イメージになります。

ホールの重要な要素であります搬入搬出については、大型トラック2台が同時に作業できるブースが確保可能であるとともに、国道192号線とあわぎんホール裏手の2ヶ所から出入りできることで、スムーズな運営が可能であると考えてあります。

最後に3ページを御覧いただきまして、こちらは調査のモデルプランの平面図と断面図になります。

今回の調査は、設計レベルの内容ではありませんが、できるだけ具体的なプランをベースに調査を進めたものでありまして、各フロアの構成も機能性を重視した内容としており、この中では1,500席を超える大ホールに加え、複数の活動室や会議室、多目的スタジオ等も備え、また、大ホールの客席を一階席、二階席、三階席の三層構造とすることで、舞台までの距離が近くなり、すぐれた鑑賞環境が提供できるものと考えてあります。

参考までに、右側に客席が三層で約1,500席規模の他県のホール事例を記載させていただいております。説明は以上です。

【吉岡 知事戦略公室長】

ただいまの県からの説明について、御意見、御質問等はありませんでしょうか。

【大谷 市民文化部長】

1つ伺います。

県としては、知事も藍場浜で建てたいとおっしゃってるわけですが、車両基地の移設については結論が出なくても、新ホールの整備場所については、藍場浜公園に変更されるということでしょうか。また、変更する場合には、その理由、当初は玉突きでというような話もあったんですが、その理由についてはどのように御説明されるのでしょうか。

【長谷川 観光スポーツ文化部副部長】

現行案の旧徳島文化センター跡地では、今、まだですね、旧文化センターの南側付近、ケープル等回っておりますが、その付近につきましては、まだ埋蔵文化財の調査が未実施となっております。これまでもそうでしたが、徳島城史跡に関連した、さらに重要な埋蔵文化財が出土する可能性がございます。その場合、新ホール整備のスケジュールが見通せない懸念がございます。

一方で、藍場浜公園西エリアは、工事費が抑えられるとともに、徳島駅に近く、駅前の商業施設からのスムーズな動線が確保できまして、人の流れを呼び込むことが期待できる点でありますとか、試掘結果を踏まえまして埋蔵文化財の調査といったものの心配がなく、着実な整備が期待できる点でメリットを有する土地であると考えております。

なお、藍場浜公園西エリアを候補地とする整備場所の変更につきましては、徳島市との協議はもとより、県議会での協議を踏まえまして決定していくこととなります。

県としましては、藍場浜公園西エリアに整備場所を変更した場合でも、新ホール整備に係る県市の基本協定第6条に既存施設の集約化を定めているように、新ホールにはすでに解体済みの、市の旧中央公民館などの市民が利用する施設の機能を盛り込む必要があることは十分認識しております。先ほど御説明した藍場浜西エリアを候補地とする新ホールのモデルプランにおきましても、機能の集約に配慮したものとなっております。

そうしたことを踏まえて、引き続き、県市協定に基づく県市協調ホールとして整備を進めて参りたいと考えております。以上でございます。

【大谷 市民文化部長】

市議会からは藍場浜公園に整備場所を変更するのであれば、それはもう、もはや県市協調新ホールとは言えないという意見がございます。ただ、基本協定第6条、中央公民館の機能を維持するということを御説明いただきましたことを踏まえますと、県として県市協調ホールという旗はなかなか降ろせないという点は理解いたします。

【吉岡 知事戦略公室長】

他にご意見等ありませんか。

よろしいですか。

それでは次の議題に移りたいと思います。

次に、「(4)新ホール整備に係る県市基本協定の取り扱いについて」県より御説明を申し上げます。

【長谷川 観光スポーツ文化部副部長】

引き続き、御説明申し上げます。

先ほども申し上げましたように、今後、県として新ホール整備を藍場浜公園で進めるとなった場合においても、引き続き、県市協調ホールとして進めたいと考えておりました、その際、課題となる現基本協定のポイントを確認しておきたいと思っております。

「資料4」で御説明させていただきます。

前半の2ページは、課題となるポイントを整理したものでございまして、それ以降は、協定の写しとなっております。

本協定につきましては、従来の旧徳島文化センター等の跡地での整備基本計画に基づき、新ホール整備を具体化していくにあたって、県と徳島市の役割分担等を定めるため令和3年3月に提出したものであります。

まず、1ページを御覧いただきまして、2の市有地の譲与についてですが、基本協定の中で、新ホールの建設用地として、文化センター跡地の市有地部分及び隣接する市道敷地について、土地の譲与に係る契約を締結し県に譲与するとされており、これに基づき財産譲与契約を締結の上、令和4年8月に県に所有権が移転されております。

この財産譲与契約の中で、県は新ホール建設用地に供する義務を負い、新ホール本体施工の竣工承認をもって義務履行が完了する等が謳われており、新ホールの整備場所を変更する場合には、その取り扱いについて対応が必要になると考えております。

次に、3の既存施設等の撤去については、県は青少年センターを撤去、徳島市は、中央公民館、社会福祉センター、街路樹管理事務所及びJR牟岐線に係る徳島跨線橋を撤去することとし、費用については、県市それぞれが役割に係る費用を負担することとなっております。

徳島市の街路樹管理事務所以外の建物は、撤去をいただいております、整備場所を変更する場合には、これまでの既存施設の撤去に要した費用に加え、現存する施設、街路樹管理事務所が残っておりますが、これの扱いや撤去した施設跡に残っております地下構造物等の取り扱いも課題になると考えております。

次に、4の既存施設の集約化につきましては、先ほどもお話しましたけれども、新ホールには旧市文化センター、県青少年センター、市中央公民館の一部の機能を集約するとしており、先ほども申しましたが、整備場所が変わったとしても、この点は盛り込む必要があることを十分認識しております。

次に、5の周辺インフラの整備につきましては、徳島市においては、市道及び線路西側から新ホールへのアクセス、下水道等の周辺インフラの整備等を行うとされており、このうち市道市立文化センター線は廃止済み、インフラ整備については、現在も徳島市において、光ケーブル・下水道管の移設工事が継続されている状況と伺っております。

整備場所の変更にあたっては、これらにつきましても、費用を含めて、取り扱いの整理が必要となります。

2ページをお開きいただきまして、次に、7の寺島公園につきましては、公園機能を維持するとともに、中央警察署来場者のための駐車場として整備し、新ホール建設用地とあわせて一

体的に活用することとされております。

この取り扱いについても協議が必要となります。

以上、課題となるようなポイントではありますが、説明は以上でございます。

【吉岡 知事戦略公室長】

ただいまの件からの説明について、ご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

【大谷 市民文化部長】

お尋ねします。

市議会においては、藍場浜公園でホール整備を進めるのであれば、協定を破棄すべきではないかといった御意見がございます。

このことについて、県の見解はいかがでしょうか。

【長谷川 観光スポーツ文化部副部長】

県としましては、これまで県市協調でホール整備に取り組む前提で、基本方針、基本計画を策定しまして、県市間で、基本協定を締結するに至った経緯でございます。

この協定が、県が主体的にホール整備に取り組む根拠と考えております。

万が一、協定が破棄となって、県市協調が維持できなければ、県がホール整備を行う根拠を失いかねないため、混乱を避けるためにも、県市の基本協定の枠組みは維持したいと考えており、つきましては、基本協定の第 17 条に基づきまして、協定の改定について協議していきたいと考えております。

【大谷 市民文化部長】

市としては引き続き、新ホールが県の財政負担で整備していただけるということについては、大変ありがたいと考えておりました、当然、協定の取扱いについては、第 17 条にある、特別な事情であるとか、この協定に定めない事項ということで、この 17 条に基づいて、今後、検討、協議をさせていただきたいと考えております。

【瀬尾 第二副市長】

もしホールの整備場所が変わっても県市協調で、ということですが、まず、基本協定に今の場所がはっきり書かれておりますので、もし場所が変わった場合については、市としては県市基本協定や財産譲与契約に基づき応分の負担を、まだ継続中の事業もありますけれども、応分の負担を県にはぜひお願いしたいと考えておりますが、その辺りはいかがでしょうか。

【村上 副知事】

ご指摘の点でございます。既に市の方で支出している経費があること、あるいは新ホール整備を前提として土地を譲与して頂いている経緯は十分承知しております。

今後、検討する中で、徳島市において御負担いただきました経費、あるいは県に対して譲渡をいただいております土地について、県民、市民に十分、御理解いただけるよう、計画や協定の扱いを含めまして、県として責任ある対応案を検討したいというふうに考えております。

【瀬尾 第二副市長】

ぜひよろしくをお願いします。

【吉岡 知事戦略公室長】

他に御意見等ございませんか。

よろしいでしょうか。

それでは、次の議題に移りたいと思います。

次に、「(5) 徳島駅北口・北側開発、車両基地移設について」まずは県より改めて検討状況について御説明を申し上げます。

【小津 県土整備部次長】

御説明させていただきます。

旧文化センター跡地に車両基地を移設することができれば、県と徳島市の間で長年懸案事項となっております連続立体交差事業に関し、事業推進の手順など、県市の考え方を一致させることができるのではないかとこのように考えてございます。

具体的には、徳島駅周辺区間、新町川南側区間、どちらからでも高架工事に着手することができ、鉄道高架の施工手順に幅が広がること、新町川南側の高架化の完成を待たずとも、車両基地の早期撤去が可能となること、全区間同時に都市計画決定をするという徳島市の考えに沿うような形になること、などのメリットがあると考えてございまして、車両基地移設にあたっての技術的な検討や、約 4.7 キロメートルの採択区間における鉄道高架事業の費用対効果などを改めて算定する、などの検証を行っているところでございます。

それでは「資料 5」を御説明させていただきます。

昨年度末から検討を進めている徳島駅北口と車両基地の中間報告として説明させていただきます。

まず、徳島駅北側エリアへのアクセス手法として考えられる 3 案をお示ししてございます。

鉄道高架を実施する案が A 案、しない案が B 案、B 案については、車両基地を移設する案が B 1 案、しない案が B 2 案というふうになってございます。

A 案は、平成 18 年度に連続立体交差事業として、国から採択を受けている現行計画であり、車両基地を移設、鉄道を高架化し、グラウンドレベルで自由通路を設置する案でございます。

B 1 案につきましては、車両基地を移設した後に、駅の上に跨線橋形式の自由通路を設置し、駅ビルの 2 階を通り、駅の南北のアクセスを確保する案です。

B 2 案につきましては、既施設への影響を最小限とし、かつ、通路延長が最も短くなる位置に跨線橋形式の自由通路を単体で設置する案でございます。

これら 3 案において、アクセス性やにぎわい創出について評価しており、特に A 案の鉄道高架による北口整備においては、花畑踏切の除却や国道 192 号の拡幅等による交通円滑化の促進、グラウンドレベルで、南北エリアが接続され、スムーズな歩行者動線の確保や、回遊性の向上に加えまして、徳島中央公園から駅前広場を抜けて、眉山に至るにぎわい交流軸の形成、車両基地跡地や、高架下の活用により、北側エリアを含めた駅周辺の活性化が期待されるなど、様々な効果が見込まれると考えております。

次に、2ページ目の車両基地代替候補地については、車両基地に必要な設備でございます、運行していない間に車両を停めておく留置設備、車両の検査、修繕などを行う検修設備などの施設配置に加えまして、鉄道高架工事中の地上にある線路、高架後の線路、どちらの高さにおいても、車両が基地に進入できる配置が可能であることを確認しております。

また、車両基地は地盤面より高くなると想定されますことから、高架橋構造と盛土構造について、今後検討を行うこととしてございます。

今後、基地構造や車両基地の運用面を踏まえた配置などをさらに検討いたしまして、概算事業費や工期などについてお示ししたいと考えてございます。

早期の車両基地移設が実現いたしますと、鉄道の高架化を推進することができ、徳島駅北口の設置、またこれに伴う北側開発など、まちづくりの可能性がさらに広がるものと考えてございまして、こちらについても、県市で協調しながら取り組んで参りたいというふうに考えてございます。

説明は以上でございます。

【吉岡 知事戦略公室長】

ただいま、県からの説明について、御意見、御質問等はございませんでしょうか。

【森 都市建設部長】

御質問させていただきますけども、車両基地についてはまだ判断材料が十分そろってないということで今後の調査結果を待つということになるんですけど、仮に、この御提案の場所で車両基地が問題をクリアできなくなった場合に、議会でも路線の存続かどうか、といった話も出てまして、結局その事業区間はどこからどこまでやるんだという話が、まだ我々市議会に対してもまだはっきりは申し上げてないところなんですけど、基本的には全区間ということになるかと思うんですけど、県の考えとしては今、これから都市計画決定を考えていかないといけないと思うんですけど、一括都決して全区間やるのか、そのあたり考えがあれば。

【小津 県土整備部次長】

連続立体交差事業の今後の進め方というところでございますが、車両基地移設検討や事業の再検証、これをしっかり進めまして、事業化に向けた新たな計画の中で、徳島市の意向も踏まえながら、お示ししていきたいというふうに考えてございます。

【森 都市建設部長】

もう1点よろしいですか。

これも議会で出た話の中の1つですが、駅北の開発っていうのが、今ひとつわからないというような話がありまして、県として、車両基地を移設した後ですね、そこをどんなふうの開発するか、具体的なイメージがもしあれば、お聞かせをいただきたいと思っております。

【木野内 知事戦略公室戦略プロジェクト統括監】

まず基本的な考え方といたしましては、新ホール整備や駅北口開発などの公共投資によりまして、それ以外の民間投資の呼び水となるというふうに考えております。

その上で、県都・徳島の魅力を向上する新たな顔として活用ができるものというふうを考えております。

御質問はこの敷地の具体的な活用ということでございますが、他県における好事例の収集、また様々な専門家の御意見などを参考にしながら、ステークホルダーであります徳島市の皆様、またJR四国の皆様とともに、この具体的な活用策、北側の活用ということを検討して参りたいと考えております。

【吉岡 知事戦略公室長】

他に御意見等ございませんでしょうか。

よろしいですか。

それでは、次の議題に移りたいと思います。

最後の議題となりますが、「(6)アリーナ整備について」まずは県より、改めて調査結果について御説明を申し上げます。

【長谷川 観光スポーツ文化部副部長】

アリーナにつきましては、県内外から多くの人を誘客し、地域のにぎわいを創出することができる施設であると考えておりました、まちづくりの核となる目指すべきアリーナ像を具体化すべく、類似施設や先進事例の調査研究を実施したところでございまして、改めてその結果を御説明させていただきます。

「資料6」をお願いいたします。

1枚目の方で御説明させていただきます。

1の調査概要としまして、県内外からの誘客促進、地域経済の活性化へとつなげる目指すべきアリーナ像を具体化するため、他県の先進事例を調査し、とりまとめたものであります。

まず、2の目指すべき姿として、バスケットボール等のプロスポーツやエンターテインメントコンテンツ提供による本物を体感し、交流人口の増加により、新たなにぎわいと活力をもたらすとともに、試合や興行日以外でも、県民が来訪できる居場所となる県民の日常を支える拠点、県民に愛される街のシンボルになることをコンセプトとしております。

次に、3の想定される主要事業、利活用シーンとしまして、プロスポーツ観戦やトップアマチュアによる新たなスポーツ体験、ライブコンサート等の多様なエンターテイメントや見本市、展示会、県民が日常的に滞在交流できる場の創出、プロスポーツのスポンサーと県内企業との接点となるなど、ビジネス投資の拡大となるシーンを目指します。

4の期待される機能、施設等要件では、基幹機能としまして、全体規模は、建築面積を1万から1万5,000平方メートルとし、客席につきましては、観客の視点に立った臨場感溢れるすり鉢状で、収容人員は5,000人以上、より快適な空間となるスイート、ラウンジの設置、一定重量の搬出入への耐性を有し、多目的な利用を可能とする床仕様に加えて、付加価値機能としまして、飲食・物販施設やマルシェ、フリーマーケット等の開催が可能なスペースの確保が必要としています。

最後に、9ページをご覧いただきまして、県内、近隣でのアリーナ等の状況ですが、収容人員を5,000人以上とする中で、競合施設になりうる施設の1つとしまして、香川県の方で、サンポート高松エリアに1万人収容のあなぶきアリーナ香川が、来年3月にオープンする予定と

なっております。

説明につきましては、以上です。

【吉岡 知事戦略公室長】

ただいまの県からの説明について、御意見、御質問等はありませんでしょうか。

【大谷 市民文化部長】

以前もお伺いしたんですが、アリーナ建設の候補地は2ヶ所となっておりますが、これについて現時点で、何か方針的に定まったようなものがあるかどうか、お考えをお聞かせいただきたいと思っております。

【長谷川 観光スポーツ文化部副部長】

アリーナの整備候補地につきましては、駅北エリアと、イオンモールの第2駐車場となっております東工業高校跡地、この2ヶ所として、県都のまちづくりグランドデザインの中でも示したところでございます。

駅北エリアにつきましては、徳島市立体育館がございまして、東工業高校跡地につきましては、新武道館の整備予定としまして、徳島市とこれまで協議を重ねてきておりますし、市有地も含まれておりますので、引き続き、徳島市と協議しながら検討を進めて参りたいと考えております。

徳島市立体育館の方なんですけども、過去においてその移転も含めて検討された経緯がございまして、今の状況といたしますか、現在どのような考えとか、教えていただけますでしょうか。

【大谷 市民文化部長】

平成30年くらいに一旦、移転の方向で検討したんですが、まだその時には候補地等々までは、検討はされていませんでした。

今現在の状況ですが、市の体育館は築46年、他市の類似施設が新しい体育館を建てた場合は約60年ぐらい使っているという例が多く、また、10年前、平成25年度から27年度にかけて耐震化工事を約3億円くらいで実施しており、耐震性にも問題がないので、当面は移転や建て替えの具体的な予定はございません。

現状、市立体育館の利用率は平均80%を超えておまして、移転するのであれば、先に代替施設の確保が前提となると考えております。

もし市立体育館を移転する場合には、候補地の選定から設計、工事で約6年間かかる見込みであると、これは先の6月の徳島市議会でも説明させていただきましたが、約6年かかるという見込みとなっております。以上です。

【長谷川 観光スポーツ文化部副部長】

現状でも、稼働率の高い市立体育館の状況については、承知いたしました。

県としましては、もちろん市立体育館のことでございますので、市の考えとか意向を踏まえまして整備場所の判断を行って参りたいと考えております。

【大谷 市民文化部長】

もう一つ伺いますんですが、これも市議会で御意見があったんですが、駅北エリアにアリーナが整備されない場合は、車両基地移設は、それに伴うホール移転も、意味がないのではないかという意見もございました。

この点については、県としてどのようにお考えでしょうか。

【木野内 知事戦略公室戦略プロジェクト統括監】

私の方からお答えします。

新ホールにつきましては、先ほども説明があったんですけども、スケジュール面で、埋蔵文化財の心配がないという優位性でありますとか、より駅前に近い点など、藍場浜公園での整備には大きなメリットがあるというふうに考えております。

また、この車両基地につきましても、旧文化センター跡地に移設することができれば、鉄道高架事業の推進にあたって、これも先ほどありましたが、県市の考え方を一致させることができると考えております。

県といたしましては、こうした新ホール整備や鉄道高架事業を進めることで、徳島駅を中心とする回遊性のあるまちを実現できるものと考えておりました、さらにその上で、アリーナを駅北エリアで整備することができれば、さらなる効果を発揮できると考えておりますが、市立体育館があるなど様々な事情がございますので、市の御意向を十分に踏まえて検討して参りたいと考えております。

【吉岡 知事戦略公室長】

他に御意見等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

本日の議事は以上となりますが、他に何かございましたら。

特にないようでございます。

では、以上をもちまして、県都魅力度アップ推進ワーキンググループの第2回会議を閉じたいと思います。

今後は、まず、本日出て参りました様々なご意見や今後の論点について、県と市におきまして、第3回会議に向けまして整理して参りたいと考えております。

本日はどうもありがとうございました。

(以上)